

(4) 学校教育学部

① 入学者選抜

ア 運営・活動の状況

i) 委員会等の開催状況

入学試験委員会を16回開催した。また、学部入学者選抜に関して5つの専門部会を合計11回開催した。

このほか、入学者選抜方法検討ワーキンググループ（学部・大学院共通）を5回開催した。

ii) 審議された主な事項

学部入学者選抜方法の概要の策定、推薦入試・一般入試等の実施計画の策定・実施、学生募集要項等の作成、合否判定基準・合否案の作成、大学入試センター試験の実施、大学入学共通テストの実施に向けた平成30年11月試行調査（プレテスト）の実施、2020年度の入学者選抜に関する予告等について審議した。

また、入学者選抜方法研究専門部会において、入学者選抜に関する追跡調査及び入学者選抜方法の改善に関して調査研究した結果を、「平成30年度入学試験委員会入学者選抜方法研究専門部会報告書」として取りまとめ、学内に公表した。

iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

○ 入試方法等の変更

平成31年度の入学者選抜から入試方法等を一部変更した。

一般入試（前期日程）の入学者選抜においては、小論文と実技検査に加え、集団面接試験を新たに実施した。

推薦入試の入学者選抜においては、これまでの集団面接試験を個別面接試験に変更して実施し、高等学校等の段階での経験・活動実績を踏まえて総合的に質問した。

また、推薦入試の推薦要件に関して、多様な志願者に対して積極的に門戸を開くため、高等学校等を卒業見込みの現役生だけでなく、前年度卒業生まで対象を拡大して募集を行った。

○ 大学入試センター試験実施に向けた取組

試験実施上のミスやトラブルは、再試験など受験者に多大な影響を与えることから、大学入試センターとの連携・協力を密にし、円滑な実施に向けた取組を行った。

具体的には、平成31年度大学入試センター試験監督業務等に関わる全ての教職員に対する説明会における周知徹底と欠席者に対する個別説明の実施及びリスニング試験における演習の実施並びに学内連絡体制や実施マニュアルの再点検、整備等を行った。

○ 大規模災害で被災した受験者への特別措置

東日本大震災等により被災した志願者の進学機会を確保する観点から、前年度に引き続き、当該志願者の入学試験に係る検定料を全額免除とする特別措置を実施した。

また、平成30年7月豪雨及び平成30年北海道胆振東部地震で被災した志願者への特別措置を追加した。

イ 優れた点及び今後の検討課題等

入学者選抜方法研究専門部会において、平成23年度から平成29年度までの卒業生を対象として、推薦

入試，一般入試（前期日程・後期日程）の各入試による入学者間の学内成績の比較や教員採用試験の受験状況（教員採用試験の合否状況を含む。）と入試成績との関連を検討した結果を示した。

推薦入試及び一般入試（前期日程）については，平成31年度入学者選抜から入試方法を変更しており，これまで継続してきた追跡調査とは別に，新たな入試方法による入学者が旧入試方法と比較してどのように変化するか調査分析を行う必要がある。